

【ねがいましては】

令和5年12月1日

KYOWA SCHOOL

第402号

「魔女の宅急便の魔女は witch？」

和歌山大学名誉教授の江利川春雄さんの執筆からです。専攻は英語教育学・英語教育史です。

江利川さんは、「私はこう主張したいと思います。深い思考力と鋭い感性は、母語で磨かれます。ですから、小学生にはまず母語すなわち国語の力を付けさせるべきです。それこそが、やがて外国語の力を伸ばす基礎となるのです。」

私はまず、英語を専門とされる方がこのように強い語調で発信されることに驚きました。

2020年度に「使える英語」を身につけさせるべきだとして、小学校から教科としての英語がスタートしました。その結果、中学校では覚える単語数が約2倍になり内容が著しく難化しました。どうなったか・・・学力テストにおける子どもたちの英語の成績は明らかに下がり、英語嫌いが増えたそうです。たしかに改定された後の教科書を眺めてみると思わず感じてしまうのが、「これは先生方、きっと授業やりにくいだろうな」です。私も立場上、目線は教える側になりがちなので・・・。それに伴って子どもたちはそれ以上に混乱するだろうな・・・です。

教授の執筆をさらに読み進めていくと、アメリカ国務省に外交官など政府職員向けの外国語教育機関である「語学学校（SLS）」があるそうで、そこでの研究では、「超困難な言語」に分類される日本語を習得するには、2200時間の集中訓練が必要だとされています。それも優秀な教員が1クラス4名程度の超少人数教室で一日中勉強に励む必要があるそうです。で、日本の教育では小学校から高校までで英語の授業時間はせいぜい1000時間程度です。しかも数十人が一斉にという環境下です。

この研究結果を文科省の方々は参考にされたのか・・・。

このような環境下の中で、子どもたちは「英語が話せるようになるぞ・・・」と、意気込んでスタートします。やがて・・・。

今、世間では教員の労働時間問題が大きく取り上げられ、学生たちは教職を「ブラック企業」と捉えることが多くなっているそうです。なり手が少なくなることで人材の質の低下が問われ、さらに教育現場では混乱が増幅、負の連鎖が起りかねない状況にあるかもしれません。いや、もう始まっているのかも・・・。

それでも学校現場では、各教科の中に当然「テスト」が入り込み、その結果に子や親はオロオロビクビクしているのかもしれません。学校絶対主義です。成績至上主義です。子どもたちはその鎖にぎゅうぎゅうと縛られながら学校へ通い続けます。

さて、私の主張です。「こころ」を豊かにすること、穏やかな状態にすること。それがひょっとすると学校で受け取ってくる「ストレス」を解消することのできる特効薬になるかもしれません。

まず、成績至上主義を返上する。大切なのはその中身、いかに興味を持って前向きに取り組んだか。たとえテストが返却され、そのいたるところに「ペケ」がついていても、落ち込むことなく「なぜ」がすかさず浮上、原因究明へと移ります。その習慣がスタートの時点で獲得できれば、その子はきっと「こころの豊か」を手に入れると思います。

人は間違えるが当たり前、わからないが当たり前、知らないが当たり前、だから学校へ学びに行っている。けっして他人との「くらべっこ」をしない。つまり点数はいらない。順位もいらない。

私たちは日本で生活しています。主に日本語を使用します。その中の「うつくしいもの」を発見しましょう。日本語は実に興味深い言語だと私は感じています。例えば最近使いたくて仕方のないことば「濃やか」があります。一般には「細やか」が使われそうです。

「細やかな気くばり」と「濃やかな気くばり」、後者の方が「あたたかいこころ」が存在するように感じます。テストでは味わえない深い感情を育むことで、その方の「ひとがら」に彩りが増すような気がいたします。

江利川教授はこう続けます。『魔女の宅急便』の魔女は『witch』ではなく、『princess』だと。それが『大人の英語力』です」と、そのような深い思考力と鋭い感性は母語で磨かれます。

子どもたちの中には、国語というと「漢字」がまず姿を現します。そして「テスト」・・・。授業では、指されないように願う、ひっかからないように読む・・・など、心から作品や文章を味わうということは難しいかもしれません。なぜなら評価が待っています。それをもすべて払しょくしてしまうような作品を、涙を流しながら読み続ける先生・・・。そんな先生に出会っていますか。『兎の眼』灰谷健次郎、おすすめです。

ある日のラジオから流れてきたことば、「私が小学生だったころ、『スーッ』となんかとても入ってこなかったことが、興味を持つと本当にスーッと入ってくるんですね。」NHK 大河ドラマで主演される吉高由里子さんが仰っていました。

そうなんです。この「スーッ」でスタートできるかが学校の勉強で最も大事な部分なのです。それに乗り損ねた子はどのようなことに・・・。

絵本を楽しそうに見ている子がいます。でも教科書を楽しそうに見ている子は、なかなか想像しにくい光景です。

提案です。小学校国語科は、絵本からスタート、しかも成績なし！言いたい放題！楽しみ放題！